

雛松らしい楽しい会を開催

雛松会140周年記念総会・懇親会

新型コロナウイルス感染拡大により、開催が2年延期されていました「雛松会 140周年記念総会・懇親会」ですが、感染状況も下火になってきたとの判断から、感染対策を徹底した上で4月15日(土)に開催することとなりました。若い年代から大先輩の年代まで、多数の会員の皆様にご出席いただきますよう、よろしくお願いいたします。

尚、当日ご出席予定の恩師の先生方は下記の通りです。

出席される予定の先生方：八木 義仁先生、多田 和彦先生、東元イツ子先生、西川理嘉先生、服部 敬一先生



日 時 令和5年4月15日(土)
受付 午後4時30分 開宴 午後5時
場 所 リーガロイヤルホテル 山楽の間(2F)
〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68
TEL:(06) 6448-1121
内 容 ○議事(挨拶ほか)
○乾杯
○懇親
○佐藤慶明氏(101期生・元サッカー日本代表)
によるミニ講演
会 費 10,000円／5,000円(平成23年以降の卒業生)
※今年25歳は平成23年卒です

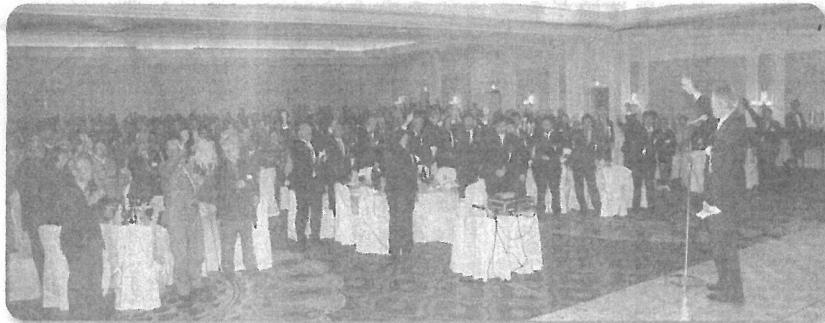
第54号



令和5年3月3日

雛松会

大阪教育大学
附属天王寺小学校
〒545-0053
大阪市阿倍野区松崎町
1丁目2-45



写真は130周年記念総会から

<主な記事>

- ◆ 140周年記念総会・懇親会案内・ジュニア会案内.....1面
- ◆ 令和4年総会・ジュニア会報告.....2面
- ◆ 会長挨拶・校長挨拶.....2面
- ◆ 会員の活動.....6面
- ◆ 年会費納入者一覧.....8面

雛松ジュニア会

★平成28年卒～令和5年卒の人

ジュニア会参加者の新型コロナ対策の注意点

日 時 令和5年3月25日(土)

AM10:00～12:00

場 所 母校(附属天王寺小学校)

- ・マスクを着用してください。
- ・入校時に検温、消毒をお願いします。
- ・37℃を超える発熱や、鼻水、のどの痛みなどの風邪症状が認められる場合は参加を控えてください。
- ・校内での飲食は禁止します。水分は適宜摂ってください。
- ・校舎内へは立ち入りを禁止します。

◆ 附小NOW.....4～5面
◆ 会員の活動.....6面
◆ 年会費納入者一覧.....8面

原点に戻り活発な活動を

認頂きました昭和42年卒業の吉村計二様へお手紙を頂いて此處に記載させていただきます。

大阪学芸大学附属天王寺小学校（昭和42年 大阪教育大学教育学部附属天王寺小学校に改称）の最後の卒業生です。

西川前会長には1年の長きにわたりて指導賜る厚き御礼申し上げます。今後もお指導、ご鞭撻賜りますよろしくお願ひ申し上げます。

さて、私にとりまく附は厳しい中にも優しくて温かさがあり、今でも校門をぐるぐる故郷に帰ってきたかのような温かい気分になります。

離校会では、先輩、後輩がお互いリスペクトし合い、新たな出会いで附属出身者と知った時、兄弟、恩師の先生の話になりやすく親しくなる事ができます。

私は母校への学園と離校会の先輩のご指導への恩返しのつもりで、若い方にお伝えしようと思い、幹事を30数年、副会長を10数年させて頂きました。

私は離校会を離らしむる楽しい会にしていこうと考えております。コロナ禍ではありますが、同窓会として原点に戻り、より活発に（同窓会の活動を進めていきたい）と考えております。

今年は、4月15日（土）に離校会140周年記念総会・懇親会を開催する予定でございます。

コロナの関係で2021年中



糸松会会長
86期(昭和42年卒)

吉村 計三

東京タワーを建てた人は誰ですか ～前田久吉さんの功績から～



「大阪城を建てた人は誰ですか?」5年生の子どもが、「こんなタイプを出されたなにがあつました。『豊臣秀吉』と答えた。彼は満面の笑みを浮べながら「ちがひます。大工さんでした。」ちょっと悔しかったです。子ども達の学びの面白を感じます。

さてそれが、問題です。「東京タワーを建てたのは誰ですか?」もちろん大工さんでも建設会社でもないのです。

東京タワーを建設したのは、田久吉、という方です。

東京タワーの公式HPには、東京タワー創業者である前田久吉といふ記述が見られます。<http://www.tokyotower.co.jp/towerinfo/> (2002/12/1 確認)

前田久吉とは、明治時代生まれの大正・昭和初期に活躍をした実業家であり、政治家です。近現代日本の肖像、というサイトにおいて、以下のように記載されています。

「新聞経営者。大正(1912)年『南大阪新聞』(現大阪新聞)を創刊し、11年社長となる。昭和(1933)年『日本工業新聞』を創刊。14年社長に就任。時事新報編役会長に就任。戦後公職放逐され、本の産業経済関係紙を統合し、産業経済新聞社を創立、代表取締役会長の重役も兼任。17年『日本工業新聞』を含む西日本



雛松会名誉会長
大阪教育大学
附属天王寺小学校校長

小崎 恭弘

○一通のメールから
5月のある日一通のメールが届きました。元産経新聞の記者であり、今は大学の教員をされておられる方がられます。その内容は「今年は産経新聞社が設立100周年を迎えます。その記念事業の一環として、創設者の前田久吉について調べています。伝記によると前田は明治30年ごろに天王寺師範附属小学校（現大阪教育大学附属天王寺小学校）を卒業しています。その当時の資料などが残っていないのでしょうか？もし残っていない場合は、どうぞ見付かったらお問い合わせください」ということです。
明治30年とは1897年です。今から125年前の記録が本校に残っているとも思えないのですが、何かしらの手がかりがあるかもしれません。また卒業生の活躍の契機となった出来事や思い出が、もしかすると存在しているかもしません。後日の返校のお約束をして電話を終えました。

奥深さといふ伝統を大切にす
代の先生方の姿勢を垣間見
がしました。しかし残念ながら
前田久吉の名前ついで貢
ることほど幸ませんでした。
そして後日大学の先生が
にお見送になり、そこで色々
お話をお聞きすることができ
した。そのお話を要約する
前田久吉は1893年(明治
年)4月22日に生まれ、物々
かないうちに天下茶屋から
山周辺に越してきましたとされて
ます。伝記では、天王寺師範
属小に入学したのが900
治33年4月とされていますが、
一方で、貴校の沿革を見ると
、中之島常安町から天王寺
移転したのは明治34年とな
います。卒業の年月も「11、
歳ごろ」などとあいまいな言
方になつており、細かい部分
疑問が残ります。伝記などに
ある「前田は成績優秀で、生徒
を務めたこともあつた」とされ
ています。また、中学校への進
を教師から勧められたもの
家庭が貧しく、丁稚奉公に出
としています。また小学生だ
とされています。また小学生だ
た1903(明治36)年に天
寺一帯で開かれた第5回内
勧業博覧会¹⁾は前田に強い印
を残したもので、あるところ
としています。

いろいろなものを刻み、その人生に大きな影響を与えた経験ではないでしょうか。この経験がなければ3300メートルもある東京タワーの建設はなかつかもれません。

小学校時代の多くの経験が前田さんの人生の礎になつたでしよう。このように考へると、小学校時代の学びや経験、友人や教師との触れ合いや臨海学習やスポーツテーマや芸芸会など様々な行事、それら全てが子たちの達の未来への大きな可能性につながるものだと感じます。学校教育は未来に向けた教育であるということを、卒業生の田久吉さんによせて頂いたように思います。本校の卒業生の晴らしい活躍を二つの誇りとして、諸先輩方に続くような人材の輩出を目指していきたいと思います。



写真 1

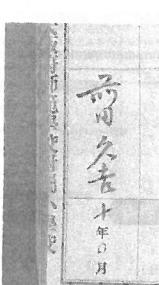


写真 2

小崎校長先生の新聞掲載記事と前田久吉氏の年表は6面に記載しています。



出席者一同で記念撮影

令和4年総会

令和3年開催予定から令和4年4月16日(土)にリーガロイヤルホテルにて開催が延期・予定されていた「雑松会140周年記念総会」は、新型コロナウィルスの感染拡大が収束しない状況を鑑み、中止となりました。そこで令和4年度は、総会のみ開催することとなり、令和4年4月16日(土)に都シティ大阪天王寺にて行われました。

総会はリモートでも参加できるように設営され、会場に21名、リモートで2名の参加者で議事を疎々と執り行い、総会後は参加者で記念撮影、コーヒータイムでは間隔を取りながらも和気あいあいとした時間を楽しみました。



西川会長挨拶



森副校長から附小の近況報告



新役員候補の紹介・承認



吉村新会長から西川前会長へ感謝状の贈呈



感染対策のため座席間隔を空けています



吉村新会長挨拶



令和4年ジュニア会

96期(昭和52年卒)

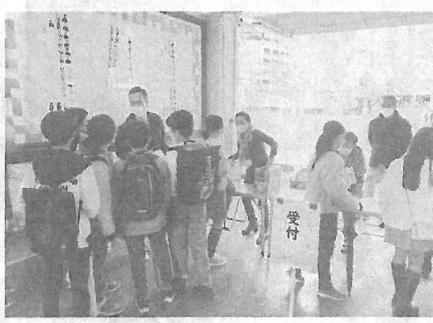
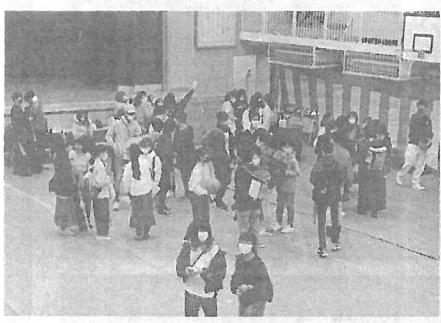
谷口 穎英

毎年3月下旬に開催される
ジュニア会の応援に、初めて
参加しました。

3密を避け、形のアトラクシ
ョンを考案します。また当日が
雨模様であったことから、急遽
体育館を開放して貰いました。
卒業アルバムを受け取るため
に集う年次は毎年多くの雑
松ジュニア達が参加してくれ
たので、用意したお菓子では間
に合わず買付羽目になりました。
創設された「ひなまつランド」
効果からか、最終的に350人
分を配りました。

滑り台やジャンケルジムに群
がる子供達の様子を見て、「当
時の滑り台は、うせん形で押し
合いでし合いたもんだ」と自
身の幼少期を想い出し懐かし
ました。

10時より2時間ばかりの催し
でしたが、終われば「新入生の
説明会」の為に、体育館での椅
子並べをなさる先生方のお手伝
いをさせて頂きました。
慌しい中、同窓会行事にご協
力くださる学校側には、感謝の
意に堪えません。
先生方には、改めて「ありがとうございました」と御礼を申し
上げたいと思います。

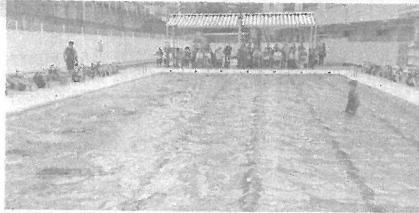


back !

たくさんの
行事が帰つ
てきました

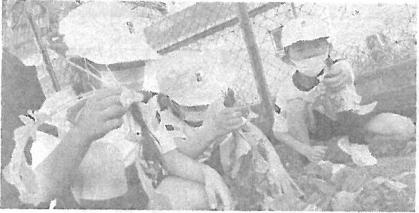
4

今年度からプールに常設のテントが付きました。屋根が可動式で開けたり閉めたりすることができます。時期が過ぎると屋根を閉めておくことができます。子どもたちや保護者にとっても過ごしやすい空間となり、子どもたちみんなも楽しんで水泳学習に取り組めています。



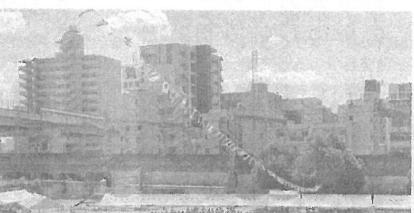
5

講堂の裏のスペースをリノベーションし、裏庭として利用しています。裏庭ではたくさんの野菜が採れます。大根・さつまいも・トマト・なす・ピーマン・じゃがいも・きゅうり・かぼちゃ・とうもろこし・ラディッシュ・ほうれん草・ブロッコリー・キャベツ・人参・イチゴなど数多く栽培しています。なお、大根は田辺大根大会で表彰を受けるほど立派なものが育ちました。



6

学校行事の規模も大きくなっています。運動会（スポーツデーと呼んでいます）は3学年ごとに実施し、前年までできなかった金管バンドの開会セレモニーも復活しました。さらに応援団も復活し競技が全体的に一層盛り上がりを見せました。学芸会は全学年同日開催で、1年生・3年生・5年生は合唱、2年生・4年生・6年生は演劇を行いました。どの学年も素晴らしい演技・演奏に取り組み、協力して1つの作品をつくる素晴らしさを学ぶことができました。



附小NOW・附小NOW・附小NOW・附小NOW・附小NOW・附小NOW・附小NOW・附小NOW・附小NOW・附小NOW・附小NOW・附小NOW

「Come」



1

コロナ禍で制限していたこともありましたが、徐々に今までの学習風景が元に戻ってきています。
教育実習や調理実習など、今までの当たり前に行っていたことがこんなにも特別で素晴らしいことなのだと実感しています。











2

今年度は宿泊行事が盛りだくさんでした。「林間学舎」「修学旅行」「臨海学舎」「スキー合宿」と4種類もの宿泊行事を行うことができました。みんなで寝食を共にし旅をする中で、たくさんの経験を得て、お友だちとの絆を育みました。宿泊行事を通じて子どもたちは一回り大きく成長し、たくましい表情へと変わっていきました。








3

附天小では新たな取り組みもたくさん行っています。こちらは縦割り班で活動をする「トリオタイム」の様子です。トリオタイムとは、1年生2年生3年生の3人でグループになり毎朝協力して学習をしていく時間となります。この時は、3年生が一番上のお兄さんお姉さんとして立派に役割を果たしてくれています。内容は、キャッチボール・ひなまつランド（遊具遊び）・大なわとび・図書・パソコンを使ってのゲームなどです。これらを順番に回っていきます。他にも、合同の英語学習や合同の水泳学習、合同の遠足まで行っています。








産経新聞 2022年（令和4年）7月6日号 14面掲載

会員の活躍



小崎恭弘さん
大阪教育大学教授

宇那木健一撮影

こさき・やすひろ 大阪教育大学教授
(同大学付属天王寺小学校長を兼務)。1968年生まれ。兵庫県出身。91年に同県西宮市初の男性保育士となり、12年間保育施設に勤務。その後、神戸常盤大学を経て2014年から大教大。専門は保育学や児童福祉、父親支援など。NPO法人「ファーリング・ジャパン」顧問も務める。

育休3回 やっと慣れた



OTEKOMACHI

4月から改正育児・介護休業法がスタートしました。「父親の育児休業（育休）取得の推進」がテーマです。2020年度の男性の育休取得率は12.7%で、政府が目指していた13%には届きませんでした。19年度の7.5%に比べるとかなり伸びましたが、20年度の女性の育休取得率は81.6%で、男女差はまだまだ大きい。周りで育休を取った男性に出会うことは難しいのではないかでしょうか。

ということで、育休を3回取得した私の体験をお伝えしたいと思います。男性保育士として勤務していた時に、3人の息子それぞれ、1歳の誕生日前の約3か月間、育休を取得しました。

くらし
家庭

育休というとどんなイメージでしょうか？私は最初「仕事が休める！」という、不純な思いでした。しかし、それは育休スタートとともに打ち砕かれました。とにかく忙しいのです。自分の時間が全くありません。0歳児との生活は、言い方は良くないですが本当に非効率的です。全てに手間がかかるのです。一度に飲んでくれるミルクの量も少ないのです。

で、回数も多い。その度に哺乳瓶を消毒します。少しづつですが、うちををずっとしている感覚で、その度にオムツを交換します。汗もかくので肌着もこまめに着替えさせます。

当然ですが、洗濯物もたくさんあります。清潔を考え、大人のものと一緒に洗えません。そして、寝てくれませんが、機嫌がいいわけではありません。何を考えているのか、本人がしゃべらないのでわかりません。宇宙人と生活しているかのようです。孤独でつらいです。

仕事に復帰した妻が帰ってくると、本当にうれしいというかホッとします。屋間の孤独の憂さを晴らすかのように、色々としゃべります。

私「今日はいっぱいうちをして大変で、機嫌が悪くて寝てくれなくて大変で……」

妻「私も仕事で疲れているから、少し黙って」

私「その言い方はひどい！こんなに育児を頑張っているのに認めてくれないのは！」

妻「私が育休の時、あなたも同じこと言っていたよ」

言い返す言葉もありません。確かに

にそうです。妻が育休の時、私が帰宅すると、せきを切ったように話しかけてきましたが、子どもの生活がよくわからず、その言葉を遮っていたように思います。反省しました。立場が変わると、見ている景色が変わります。妻の大変さや思いに、全く気づいていませんでした。

そこから色々と考えました。3人目の時には、もう少し慣れて日々うまくできるようになった気がします。育児は3回すれば上手になります。

今後、ますます男性の育休は注目を集めるでしょうが、男性サイドだけの視点ではうまくいかず、女性や子どもからの視点も加味することが必要です。そして、育休を取るだけでよいわけではありません。この制度は父親と家族が幸せになるためのものです。一つの「テコ」ととらえて、自分らしい子育ての形を作りたいのです。男性の育休取得はゴールではなく、スタートなのです。

*「子育て応援団」コラムは毎月第1日曜日に掲載します。

読売新聞 2022年（令和4年）6月5日号 14面掲載

令和4年度
年会費納入者氏名
(令和5年2月5日現在・敬称略)

特別賛助会員

岸本 光正・安田 美津子・戸川 晴子・渋谷 審作、吉村 計三・秋野 光哉・木下 吉信・瀬戸 知代・谷口 福英・西村 泰彦・島野 泰三・江藤 智麿・生野 淑子・竹野 悅佳・山本 有佳里・村田 駿介・金子龍一郎・森岡 愛子・張 楊楚・東海 歩花

賛助会員・森田 道子・山根 勇・岡村 悅・辰野 守彦・秋田 光彦・由井 直子・西村 尚子・良元 亮・藤川 力彬・金子 龍一郎

昭和11年卒
相馬 和子

昭和14年卒
菊池 富美子・佐藤 みどり

昭和15年卒
岡本 美登里

昭和16年卒
奥川 章子・田辺 悅紀子

昭和18年卒
伊藤 欣一・久貴 忠彦・菊野 妙子・森田 通子

昭和19年卒
伊加利勝 晴・荻原 一郎・尾形 丈二・塙田 順子・加納 純子・横山 滋惠子

昭和21年卒
小川 やす子・山本 敦子・丹羽 弘子

昭和22年卒
福岡 美彦・浅村 喜代子

昭和23年卒
山原 尚子・豊田 光子・打垣内 恵子

昭和24年卒
石川 一高・中田 充弘・志田原 真弓・河島 真明・細原 孝子

昭和25年卒
高岡 伸一・竹田 練三・中林 昌子

昭和26年卒
城戸 義雄・松井 精朗・乾 登美子

昭和27年卒
飯田 孝行・後藤 忠彦・奥村 桂子・都筑 章

昭和28年卒
岡島 義之・川端 孝芳・西田 尤俊・山田 正夫・鈴木 美重・新貝 和恩・植松 誠子・吉田 耕

昭和29年卒
吉田 裕計・奥尾 三紗子

昭和30年卒
豊井 久雄・鶴谷 信三・山田 浩勝・岸本 光正・早川 久仁子・井上 篤・岡田 範子

昭和31年卒
藤本 圭一・北野 公造・錢高 一善・中橋 正和・曲田 秀男・山根 勇・武田 勝年

昭和32年卒
小山 彪・武藤 邦弘・安田 美津子・岡村 悅・新田 長彦

昭和33年卒
糸原 和子・戸川 晴子

昭和34年卒
小西 克彦・酒井 秀夫・佐々木 義之・並川 俊一郎・森本 忠精・山中 邦子・河野 通子

昭和35年卒
和田 淑子・碧村 安見・中尾 哲・松嶋 美恵子・里村 由・住野 公一

昭和36年卒
石川 博・荻野 謙一・河合 権隆・三上 修司・有岡 雅行・梨林 守夫・米津 精文・岡本 明剛・海野

優子

昭和37年卒

石原 義久・小谷 洋一・宮前 雅明・吉川 建夫・淀

省三・北條 順子・鈴木 美和子・山田 妙・安東

佐紀子・北浦 豊・中野 佳則・奥野 審美子・浅田

愛

昭和38年卒

花房 俊陽・石谷 隆子・角谷 景司・能勢 豊一・平

田 順慶・宮崎 徹・西頃 真佐子・中山 真理子・市

川 順一・田中 一光・和倉 正久・三橋 素子・神波

美由喜

昭和39年卒

深川 信・宮田 栄二・太田 実一郎・佐伯 英隆・四

富 義久・辰野 守彦・吉川 善兼・松嶋 由美子

昭和40年卒

江田 昌平・北尻 雅則・白江 淳郎・川瀬 夕起子・

安宅 千浩・安田 公治

昭和41年卒

刀禪 佳久・松尾 厚・山本 博史・杉田 善彦・吉村

盛善・尾崎 和世・三上 淑子

昭和42年卒

沈谷 喜春・山野 正博・吉村 計三・山野 しおり・

五影 隆則

昭和43年卒

坂井 良郎・平井 健三郎・山口 英行・曾尾 光子・

櫻並 美江子・中出 安子・秋田 光彦・原田 崇・斑

利子

昭和44年卒

伊藤 亘恒・塙田 充・由井 直子・松本 圭・田村

美智子

昭和45年卒

奥田 ゆかり・近藤 舞子・若山 由紀子・浅野 隆

司

昭和46年卒

坂井田 紀子・坂本 雅生・市川 澄子・浦川 信司・

中出 雅治

昭和47年卒

寺崎 知久・渡邉 緑子・浜田 優子・鈴木 舞子・牛

道 慶・佐野 隆久・保田 健・伊丹 由美・小橋 墓

子

昭和48年卒

秋田 光成・宮内 晃・浦川 正人・柳野 博文・谷

泰一郎

昭和49年卒

荻原 博美・笛井 敦夫・大西 規世子・西垣外 覚

徳・木下 吉信・浜田 勝

昭和50年卒

松井 康造・岡岡 利雄・木岡 英郎・金銅 英二・岡

義史・平田 修一・平田 健・芳式 強・貝田 勝仁

子・瀬戸 知代

昭和51年卒

中席 徹・浜田 康・春日井 孝明・川名 あかね

昭和52年卒

中嶋 幸子・太田 祥彦・谷口 裕英・多屋 嘉一・村

上 正昭

昭和53年卒

御井 伸一・岡田 勝・佐々木 義之・並川 俊一

郎・森本 忠精・山中 邦子・河野 通子

昭和54年卒

上嶋 亮・島野 泰三・小高 康・翼 宣夫・中谷 知

子・伊藤 久美子・大石 賀美・横田 美幸・橋村

優子

昭和55年卒

安達 剛・天野 伸一・賀戸 裕史・津村 一也・中島

◎令和4年度も多くの方々から年会費を納入していただきました。感謝申し上げます。

◎事務処理上、誤り・脱落もあるかと思います。お気付きの方は離松会事務局までFAXにてご連絡ください。(FAX06-6771-6116)

◎令和5年度の会費は別記の様になっております。重ねてご協力をお願いします。

賀介・藤井 茂彦・田中 玲子・青柳 武浩・津田 晃子・岩崎 大智

平成20年卒

川西 幸季・小杉 悠貴・西井 伽奈・三島 那都美・

大野 純生・三田 雄大・南野 皓亮・大塚 菜生・宮

多尾 衣里・山口 環奈・日野 太貴・松井 隆

平成21年卒

大下 誠・三井 紗智子

平成22年卒

芝田 大輝・西村 夏彦・岡田 裕太・村田 裕太朗・

木岡 駿・杉岡 淳平・石川 万奈奈・岩崎 佑央・田

中 智章・村田 隆

平成23年卒

大西 八雲・熊谷 幹喜・川元 光・萌・三島 佳奈子・村

田 絹海・川本 ひかる・七里 美

平成24年卒

田端 駿大・平田 駿一郎・白井 膳陸・賀 勉・加香・

八十 まゆき・麻 大輔・大田 潤之介・木原 緑香

平成25年卒

篠塚 祐希・角 麗奈・中村 結香・川野 勝・西岡

眞治・竹崎 皓輔・馬場 光輔・伊庭 奈々・丁摩

夏夫・小林 真子・下豆 朱音・山本 優歩・池邊

亮輔・上村 佑真・金 悠支・桑野 陽帆・川日本 真

央・伴 京菜加。

平成26年卒

斎藤 岳・奥 朝夕花・木原 光優・小門 巧・岡田

賢智・宮崎 翔大・上田 直輝・小杉 真理恵

平成27年卒

高嶋 仁時・戴野 哲人・桑野 日菜海・出合 あゆみ・篠塚 雅子・下豆 朱音・山本 梅香・栗原 梨々花・鈴木 優里・原田 明・白井 千明・奥 梨々花・川口 僚太・上村 瞳汰・藤川 力彬・藤島 樹・土肥 久恵・野尻 愛理

平成28年卒

齋藤 香・赤田 真平・馬場 礼佳・天野 秀一・原

田 奏・細見 真由

平成29年卒

阪本 顺生・山本 斎生・平康・花井 乃子・石井 陽一郎・橋本 楠啓・新堂 昌宏・石丸 淑恵・良元 亮

平成30年卒

阿部 尚紀・兒玉 桜子・柴田 真人・安田 輝・岩井 伊智子・島 暖奈・篠山 葵・向山 怜朗・戴野 晴馬・亞美・木田 翔己・鶴見 宗一郎・出口 凱

也・西田 尚平・山本 大輔・天道 理花・西村 佳奈美・西川 佳凛・松尾 優華・柳谷 夏佳・和田 濃花

平成31年卒

浅井 恵貴・上田 悠貴・坪内 実哉・大野 悅司・中野 壮太朗・井上 光・上玉 利・佐々見 結華・桜羽

平成32年卒

金子 龍一郎・志村 聰介・中西 晚・平田 快人・内 海・奈津季・下川 寧々・中野 藍・ハトノ ナツキ・渡邊 亜美・木田 翔己・鶴見 宗一郎・出口 凱

也・西田 尚平・山本 大輔・天道 理花・西村 佳奈美・西川 佳凛・松尾 優華・柳谷 夏佳・和田 濃花

平成33年卒

令和2年卒

金子 龍一郎・志村 聰介・中西 晚・平田 快人・内 海・奈津季・下川 寧々・中野 藍・ハトノ ナツキ・渡邊 亜美・木田 翔己・鶴見 宗一郎・出口 凱

也・西田 尚平・山本 大輔・天道 理花・西村 佳奈美・西川 佳凛・松尾 優華・柳谷 夏佳・和田 濃花

令和3年卒

岩崎 佑治・河中 総太朗・小林 栄亮・出岡 由季・井上 紗良・天道 桃子・森平 一花・横山 聖・木田

泰嘉・國安 優人・佐々見 結華・島 純平・大塚

美潤・張 晴美・秦 理沙・谷本 啓磨・榮山 京平・西尾 穂祐・山瀬 創太郎・岡 浩愛子・古賀 櫻子・佐藤 百合香・穂口 結貴・東海 歩花

令和4年卒

全員

離松会会計令と3年度収支計算書

令和3年4月1日～令和4年3月31日

会計幹事

赤尾 浩樹

取 入 の 部 の 前年度からの繰越金	合 計	9,367,568
・会員費・賛助会員	1,746,968	都便込
・令和3年卒業生 ・新会員入会金・年会費 ・預金利息	563 口	令和3年度会費
直接納入	4 口	1,727,866 円
1,520,000 人会費	"	19,000 円
100 定期預金利息 (口座番号 0018622) 100 通常預金利息 (口座番号 1135673)	3,000 口 × 104 口 = 2,000 口 × 104 口 = 1年定期	312,000 円 208,000 円 95 円
小計	2,267,067	6 円
7,100,502 定期預金(口座番号 0018622) 1年定期	5,646,737 円	5,646,737 円
普通預金(口座番号 1135673)	979,684 円	979,684 円
郵便口座	5 口	0 円
貯金会員預金(会員番号 仮払金)	0 口	0 円
名簿会員預金(名簿代金)	912,461 円	912,461 円
名簿会員預金(名簿代金)	0 口	0 円
名簿会員預金(名簿代金)	121,000 円	121,000 円
・諸会費	230,289 円	230,289 円
・記念品	198,000 円	198,000 円
・事務用品	450 円	450 円
部費	660 円	860 円
・その他	52,800 円	52,800 円
合 計	2,152,298	52,800 円
次年度への繰越金	7,215,273	定期預金(口座番号 0018622) 1年定期 普通預金(口座番号 1135673)
		5,646,832 円 1,129,340 円
		郵便口座 貯金会員預金(会員番号 仮払金)
		30,000 円 名簿会員預金(名簿代金)
		934,101 円 名簿会員預金(名簿代金)
		315,000 円 定期預金(口座番号 0018622) 1年定期
		200,000 円 普通預金(口座番号 1135673)
		合 計 12,152,273 円

監査 村田 秀穂

令和5年度年会費について

●同封の払込用紙をご利用下さい。

●30才以上の正会員の方は3,000円です。

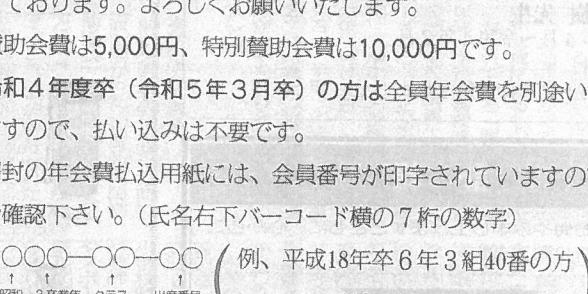
●30才未満の正会員の方は2,000円です。

ご協力をお願いいたします方には、賛助会費・特別賛助会費を設けております。よろしくお願いいたします。

●賛助会費は5,000円、特別賛助会費は10,000円です。

●令和4年度卒(令和5年3月卒)の方は全員年会費を別途いただきますので、払い込みは不要です。

●同封の年会費払込用紙には、会員番号が印字されていますので、ご確認下さい。(氏名右下バーコード横の7桁の数字)



●通信欄に近況報告等をお書き下さい。会報次号で紹介します。

郵便振替 大阪00960-2-27966離松会宛